

この単元の前に「読むこと」の指導を10時間実施している

国語科（文学国語）学習指導案

指導者 *** **

- 一日 時 令和*年*月*日（*曜日）第*時限目（50分）
- 二学 級 第三学年*組（*名）
- 三単元名 心情を情景描写に盛り込んで小説を書き換えよう
- 四単元の目標

- (1) 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕（1）のウ）
 - (2) 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫することができる。（〔思考力、判断力、表現力等〕A「書くこと」（1）のウ）
 - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（学びに向かう力、人間性等）
- 五 取り上げる言語活動と教材
- (1) 言語活動
- 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、批評し合う活動。
- (〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(2)のイを参照)

六 単元の評価規準

- (1) 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。（知識・技能）
- (2) 「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫している。（思考・判断・表現）
- (3) 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、批評し合う活動を通して、積極的に自らの血肉となる語彙を増やし、表現力を磨きながら自らの学習を調整して、読み手を引きつける独創的な文章を書こうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

七 指導観

- (1) 単元観
場面の書き換えを通じて、読み手を引きつける独創的な文章を書き、表現力の洗練化を図る単元である。人物の心情や情景描写との呼応関係、象徴表現や暗示など、創作の際の技法を学ぶことができる。
- (2) 学習者観
学習意欲は高いが、記述には時間がかかり、手が止まる生徒が多い。小説に描かれた要素を身近な事柄に引きつけて書き換えることで、表現力を磨くとともに、意見交換を通じて自らの血肉となる語彙を増やし、積極的に他者と関わる雰囲気醸成したい。
- (3) 教材観
現在と過去の二つの時間によって構成された回想形式の一人称小説である。和語と漢語を巧みに取り混ぜた雅文体で叙述され、自然や風景描写が心象風景として象徴的に用いられたり、その後の展開を暗示したりしており、小説の構成や修辞を学ぶ上でも優れた教材である。

八 単元の指導計画（配当時間5時間）

次 時間	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認 ■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
	・登場人物の心情と情景描写との呼応関係を読み取る	・例えば次の場面のよう 同じ場所でも描かれ方が違	

資料 4

第3次 1時間	第2次 1時間	第1次 3時間
<ul style="list-style-type: none"> ・各班の代表作の発表を聞き、内容や表現の仕方を共有して自らの今後の表現に生かす。 ・振り返りシートを記入して、これまでの学習を振 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に向けて代表作を選ぶ。 ・指摘された箇所を中心に更に表現を工夫して推敲する。 ・気付いた点を指摘する。 ・作品を相互に読み、評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中で使用されている修辞を確認する。 ・学習した場面のうち、次の2つの場面設定を参考に、文章を創作する。 「ベルリン到着時」 「エリスとの出会い」
<ul style="list-style-type: none"> ・書画カメラ等を使って発表の時間短縮に努める。 ・発表を聞き、参考にしたい描写のメモを取らせる。 ・創作にあたって工夫した点や、意図した事柄が効果的 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価表を使って作品を評価させる。 ・付箋を活用して、修正した方がよい所を指摘させる。 ・付箋を剥がしたり初稿を消したりせず、修正の過程を残しておくように指示する。 * 早く終わった生徒は、記述が進まない生徒を手伝い、描写の提案をするよう指示する。 ・時間があれば、代表作の表現を、班員全員で更に練り上げるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のタブレット端末を使用して、修辞技法について調べさせ、情景描写の中で用いられた修辞を確認させる。 ・学習した修辞を活用し、心情と呼応した情景描写をしながら、 A 主人公が新天地で生活を始めた) B 主人公が環境になじめず、つまずいた) という設定で文章を創作させる。 ・あまり欲張らず、最も効果的だと考える表現で簡潔に記すようにさせる。 ・直接的な心情表現や、心情が容易にうかがえる状況説明は避け、情景描写で心情を表すように指示する。
<ul style="list-style-type: none"> ◇ (思) (態) □ 行動の観察 ■ 記述の分析 (振り返りシート) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (思) (態) ■ 記述の分析 (ワークシート 2, 3) * 相互評価表を参考にし、一番修正すべき点を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ (知) (思) □ 記述の点検 (ワークシート 1) 1) 1時間目終了後に回収し、2時間目に返却 * うまく進まない生徒には、高校入学時の心境と、学校生活でのつまずきなど、自らの体験を基に記述するよう助言する。 □ 記述の確認 (ワークシート 2) 2) 2時間目終了後に一度回収し、3時間目に返却 * 直接的な心情表現の使用などは、条件に従っていない場合は、次の時間で修正させる。

資料 4

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・ 本時の学習内容を 知る。	①単元の目標と言語活動に ついて確認する。	①評価規準を基に、本時の目標を示 す。
展開 (40分)	・ 作品を評価する。 ・ 修正稿を書く。	②作品を相互に読み合う。 ③相互評価表を使って作品 を評価する。 ④気付いた点を指摘する。 ⑤指摘された箇所を中心に 更に表現を工夫して推 敲する。 ⑥再び相互に読み合い、発 表に向けての代表作を選 ぶ。	②班は3〜4人にする。 ③注意点を板書するなど、評価が スムーズに行われるようにする。 板書例 ・ AとBで情景（＝心情）の描 写の対比はしてあるか ・ 学習した修辭が使用してある か ・ 構成・展開に独自性はあるか ④付箋を活用して、修正した方が よい所を指摘させる。 ⑤付箋を剥がしたり初稿を消した りせず、修正の過程を残してお くように指示する。 ⑥時間があれば、代表作の表現を、 班員全員で更に練り上げるよ う指示する。
終結 (5分)	・ 本時の内容を振り 返る。 ・ 次時の内容を知る。	⑦ワークシート3の「ひと こと振り返り」に記入す る。 ⑧次時の目標について確認 する。	◆ワークシート2、3を回収する。 2をルーブリックにより評価し、 3を記述の分析により評価する。 ⑧評価規準に基づいて、次時の目 標を示す。

- 九 本時の具体的な目標
 他者の意見を参考に、文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文
 章になるよう粘り強く推敲することができる。
- 十 本時の具体的な評価規準
 他者の意見を参考に、文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文
 章になるよう粘り強く推敲しようとしている。
- 十一 本時（全5時間中の4時間目）の指導

り返る。	に表現できたかどうか、更 に、創作活動に取り組む前 と比べて、自らの表現力に どのような成長・深化が見 られたかを振り返らせる。	ト
------	--	---

※教師用（①は第2次で、②は第3次で使用して評価する）

観点	A	B	C
①修辞などの表現技法を使用し、独創的な文章を書く。 (思考・判断・表現)	独自の観点や発想で場面を展開し、文体や修辞を工夫して心情と情景の呼応関係を効果的に描写し、創作することができる。	本文の設定や描写を一部利用して場面を展開し、文体や修辞の効果を考えながら、心情と情景の呼応関係を描写し、創作することができる。	本文の設定や描写を流用して場面を展開し、修辞を使用して情景を描写することができる。
②他者の意見を参考に、自らの文章を粘り強く推敲する。 (主体的に学習に取り組む態度)	他者に指摘を受けた所を中心に、文章全体を見直し、より適切で効果的な表現を粘り強く考え、創作に取り組むことができる。	他者に指摘を受けた所について、より適切で効果的な表現を考え、創作に取り組むことができる。	他者に指摘を受けた表現を修正し、創作に取り組むことができる。

※生徒用（①は第2次で、②は第3次で使用して評価する）

観点	A	B	C
①修辞などの表現技法を使用し、独創的な文章を書く。 (思考・判断・表現)	自分ならではの観点や発想で文章を展開し、文体や修辞を工夫して心情を情景で描写することができる。	本文の設定や描写を一部利用して文章を展開し、修辞を使用して心情を情景で描写することができる。	本文の設定や描写を流用して文章を展開し、修辞を使用して情景を描写することができる。
②班員の意見を参考に、表現を練り直す。 (主体的に学習に取り組む態度)	指摘された所を中心に、全体を見直し、効果的な表現を粘り強く考えて修正することができた。	指摘された所の表現を粘り強く考え、修正することができた。	指摘された所の表現を修正することができた。

組 番 氏名

心情を情景描写に盛り込んで小説の場面を書き換えよう

ワークシート

「豊太郎がベルリンに到着した時」「エリスと初めて出会った時」の2つの場面を参考に、

- A 主人公が新天地で生活を始めた
- B 主人公が環境になじめずつまずいた

という設定で、それぞれ文章を創作しよう

注意点

- ・ 本文で使用されている修辭や、これまで学習してきた修辭を活用すること
- ・ 主人公の心情を場所の描写に盛り込むこと（A・Bで設定する場所は変えないこと）
- ・ 最も効果的だと考える表現で簡潔にまとめること

1 本文で使用されている修辭を確認しよう

--	--

2 細かい設定を考えよう

AB共通 主人公設定

主人公	年代	性格	職業

文のスタイル

例：口語体／文語体 一人称／三人称
 常体／敬体 回想形／現在進行形
 など

--	--

Aの状況設定

季節	時間帯	場所（詳しく）	新しい生活の内容（何をしに来た？）	その時の心情

Bの状況設定

季節	時間帯	場所（詳しく）	トラブルの内容	その時の心情
		Aと同じ場所を使う		

※ 次回は実際に創作に入ります。時間が余った人は、「こんな表現を入れてみたい」というフレーズや、プロット（筋書き、あらすじ）を書いてみましょう。

--	--

描写で最も工夫したところ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

自己評価

修辞が活用できたか

A B C

自分の言葉で描写したか

A B C

B 主人公()は

組 番号 氏名

()で書きた

コメント・付箋は()

心情を情景描写に盛り込んで小説の場面を書き換えよう

ワークシート3

作品を評価してもらおう

相互評価表

他の人からの評価

観点	A	B	C
修辞などの表現技法を使用し、独創的な文章を書く。	自分ならではの観点や発想で文章を展開し、文体や修辞を工夫して心情を情景で描写することができた。	本文の設定や描写を一部利用し、修辞を使用して心情を情景で描写することができた。	本文の設定や描写を流用して、修辞を展開し、情景を描写することができた。

班員その1	A	B	C
班員その2	A	B	C
班員その3	A	B	C

ひとこと振り返り

（「相互評価を受けて自分の作品を練り直す」という今日の学習を通して、何が身に付いたか、何が足りないかを振り返って書こう）

----- ここから先は次の時間に使います -----

※ 次回は代表作を発表してもらいます。発表を聞き、自分の今後の表現に生かすために参考にしたいと思った描写をここにメモしましょう。

発表メモ

心情を情景描写に盛り込んで小説の場面を書き換えよう

振り返しシート

組 番 氏名

1 創作にあたって工夫した点を記入しよう

--

2 表現技法を使って、意図した事柄を効果的に表現し、読み手を引きつける作品にできたかを自己評価しよう(A〜Cいずれかに○を)

A	B	C
自分ならではの観点や発想で文章を展開し、文体や修辞を工夫して心情を情景で描写することができた。	本文の設定や描写を一部利用して文章を展開し、修辞を使用して心情を情景で描写することができた。	本文の設定や描写を流用して文章を展開し、修辞を使用して情景を描写することができた。

3 うまく読みに伝わらなかったと評価された／感じた点を記入しよう

--

4 どのように修正したかを自己評価しよう(A〜Cいずれかに○を)

A	B	C
指摘された所を中心に、全体を見直し、効果的な表現を粘り強く考えて修正することができた。	指摘された所の表現を粘り強く考え、修正することができた。	指摘された所の表現を修正することができた。

5 創作活動に取り組み前と後で、自らの表現力にどのような成長・深化が見られたかを記入しよう

--

6 5に記入した力を、今後どのような場面や学習で生かしていきたいかを記入しよう

--